

日々思うこと

はじめまして、福井産業技術学院の佐々木君（ヒデ）からリレートークを受けました富山の小林です。同じ北陸の地で仕事をしている佐々木君とは何か同じ境遇にあるように感じます（お互い県外出身者）。

佐々木君から依頼を受けたときは、昔から世話になっているので、「断る！」と言えるわけもなく、こうして締切りぎりぎりでの原稿執筆となりました。



私が富山県へ移り住んで早や7年が過ぎました。初めは、右も左もわからなかった私ですが周りの方の助けで何とか7年やってきました。公私とも親切な方々ばかりで富山湾、立山、美味しい魚などいろいろ楽しい経験をさせてもらいました。佐々木君も言っていましたが、富山の言葉にも大分慣れてきましたが、話すとなると何か変になってしまいます。この間思い切って話してみたいのですが、何か変な感じで聞こえたらしく笑われてしまいました。まだまだでした。

さて、内容ですがせっかくですので現所属の住宅サービス科のPRをさせていただきます。内容は自由ということで少しでも現場の雰囲気伝わればよいと思います。富山県に平成8年に採用され5年間は富山市の訓練校に勤務し、2年前から黒部職業能力開発センターにお世話になっています。私が担当している住宅サービス科ですが、離転職者対象の6ヵ月訓練で1回定員30人の訓練科（Ⅰ類、Ⅱ類各15名程度）です。私が担当しているⅡ類は、住宅建築の床・壁・天井の下地・仕上げ施工、付属備品製作（家具）などの知識技能習得を目指しています。私よりも何十年も年配で経験豊富な方が訓練生として入所してきますので、指導員としてまず“やってみせる”というのが一番大事なことはないかと私は考えます。能開大を出て現場の経験のない私は配属されて



早々は自分のことに精いっぱい訓練生とまともに向かい合っていない毎日でした。そこで、民間企業や長野の訓練校（木工科）へ長期研修を毎年希望し技能習得に頑張ってきました。言い方は変かもしれませんが、外部の空気を吸うことで自分の領域も広がるし、何か自信もついてくる気がします。

7年前に比べて気持ちにも余裕ができ、前訓練生との交流も大事にしています。普段は指導する立場にいますが、教えられる部分も大きいのです。

また、応用実習で黒部市の観光協会や公共施設などにベンチやテーブルの受注製作、内装仕上げなどしていますが、やり終えた後の訓練生の顔は達成感にあふれた“良い顔”をしています。その顔をみるのが私のやりがいでもある気がします。



さて、次のリレートークは北海道北見高等技術専門学院の佐々木穰先生です。穰さんとは、能開大時代、私と同じ造形工学科の同級生で、私にはない渋さとかっこよさを持っています。では、よろしくお祈いします。